日本海南部(MD01-2407)の海底堆積物中における有孔虫群集変化(予察)

Foraminiferal assemblages changes in the southern Japan Sea, MD01-2407 (Prognostication)

石垣 歩[1]，長谷川 四郎[2]
Ayumu Ishigaki[1], Shiro Hasegawa[2]

[1] 熊大・自然，[2] 熊大・理・地球
[1] Earth Environmental Sci,.Univ, [2] Earth Sci., Kumamoto Univ.

日本海南部に位置する隠岐堆上の地点(37°04N, 134°42E, 水深 932m)から R/V Marion Defresne による IMAGES2001 航海において MD01-2407(コア長 55.28m)について，底生有孔虫群集を検討しており，これまでの概査によって得られた結果を報告する．

試料は凍結乾燥ののち開口径 63μm のふるい上で水洗した．現在コアのトップから下底(推定年代 56 万年)までを数 m 間隔で調査している．底生有孔虫群集はおおむね Eilohedra nipponica, Islandiella norcrossi, Brizalina pacifica, Angulogerina ikebei, Bolivina pacifica

などを主としており，大場ほか(1980)，加藤(1984)などで報告された過去約 5 万年の群集が，コアの下部まで認められる．底生有孔虫の産出量は明色層においてほぼ一定だが，暗色層でやや少ない．これに対し浮遊性種は約 8 万年前以前の暗色層で減少する傾向がある．従来の調査では，TL-1 や TL-2 など LGM 以降の暗色層において浮遊性有孔虫が多産することが報告されているが，今回の結果はこれと異なっており，今後さらに試料数を加えて検討を進める予定である．